

山行報告書

日時	2013/8/12-2013/8/17		
山名	南アルプス(甲斐駒ヶ岳一北岳縦走)		
CL	諫山	参加者	新野
HP記載の有無：-			
<p>13日は日本三大急登、山頂より北東へ長く迫り出した尾根(黒戸尾根)で釜無川の源流のひとつ尾白川の登山標高約800m・2967mの山頂までの登高を残す屈指の難コースです。黒戸山(2253.7m)を過ぎた5合目より梯子と鎖の連続でした。長い道のりでしたが夕食には少し早い時刻に七丈第一小屋に到着。そこでは数人の登山客がそれぞれの休息をとってつろいでおりました。山小屋のご主人は寡黙で余計な事はお話されないで食事の準備で忙しそうでした。それもあってか小屋の少し小高い場所で皆さんで雑談となりました。夕食のお刺身が山登りの疲れを癒してくれました。</p> <p>14日は小屋より八合目御来光迎場で朝日を拝み甲斐駒ヶ岳山頂へ(昨日の小屋泊りの勇士達と記念撮影)</p> <p>山頂を後に大きな岩のあるコル六方石にそれから駒津峰に到着。駒津峰から双児山に続く稜線は快適だが樹林中の急坂で楽しい道とは言えなくなりました。そして北沢峠のバス停まで下り休憩を少しいれて、北沢峠より樹林中の登りに暫く苦しめられながら、谷から吹き抜ける風が体に触れる度に少し立ち止まり又歩く。幾度かそれを繰り返して歩いていると、見晴のいいハイマツの登りになり小仙丈ヶ岳に着く。このピークを後に小仙丈カールに沿って緩い登り坂を進めば時折北岳側の展望が現れる。カール上端を左縁し緩やかな稜線を進むと山頂そして目下にある山小屋に到着。</p> <p>15日は小屋から仙塩尾根を歩き伊那荒倉岳を超えると高望池(枯湯)そこで軽食を摂り、だだ下って登り返すと横川岳・野呂川越からさらに三峰岳は最も歩かれていない区間らしい。前半は単調で緩い登りが続く稜線の右側を巻いて登り尾根筋にでて間もなく2699mに至る頃、雷鳴と雨にあいました。雷が鳴りやむのをじっと待っていました。どれ位いたでしょうか?</p> <p>諫山さんの機転でツェルトで雨を凌ぎそしてもうひと登りして三峰岳の岩頭にでました。やせた岩稜を進み二つ三つ小ピークを超えるとハイマツが現れて三国平に至る。これより急傾斜となって赤土のジグザグ道を下ると井川越この先の緩傾斜の草地にある熊ノ平小屋に泊まる。、</p> <p>標高が高い所での雷鳴はハイマツに隠れるしかなくとも怖かった。</p> <p>16日小屋から昨日下った同じ道のりで間の岳まで歩く。間の岳は北岳と農鳥岳の間の山名。 (古今和歌集:「いつかたと甲斐の白ねは知らねども 雪降るごとに思ひこそすれ」) (平家物語:「北に遠ざかり雪白き山あり 問へば甲斐と白嶺といふ」)</p> <p>どっしりとして大きい頂上も広いので霧などの時は迷いやすいと思われます。南西面は静岡県、東には氷河地形の細沢カールが見える。目指すは北岳、唯積岩から構成される四万十層群に属する山頂は険しい石灰岩やチャート・海洋玄武岩などの岩石が構成するメランジュとなっているため、硬く浸食を受けにくい鋭い峰を造っているらしい。白根山系の北端北岳から北側の小太郎尾根・白根御池分岐まで来た所で雨模様となる。カッパを着るのも面倒くさくなり草すべり付近まで冷たい雨が心地よかった。しかし歩きづらいのと雷鳴が代償となりました。雨足は弱くなりやっと広河原に到着やいなや、芦安行のバスに飛び乗って白雲山荘に到着です。</p> <p>今回の南アルプス山行では諫山さんのご指導なくしては登れていませんでした。</p> <p>そして長時間の運転本当にお疲れ様でした。有難うございました。</p> <p>(新野)</p>			